

意図帰属傾向に影響を与える個人特性についての検討

平野 文

対人場面において「他者の行動に対する原因・意図を推測する」意図帰属過程にエラーが起きると、相手の行動に対する意図帰属傾向の偏り（意図帰属バイアス）が生じる。本研究では、評価懸念・賞賛獲得欲求・拒否回避欲求という3つの個人特性が意図帰属バイアスの個人差に与える影響の検討を目的とする。先行研究に基づき、3つの仮説を立てた。仮説1:評価懸念が高いと、相手の行動を「相手の悪意のせい（敵意帰属）」または「自分のせい（自責帰属）」だと考えやすい。仮説2:拒否回避欲求は評価懸念を高めるが、賞賛獲得欲求は評価懸念と関連を持たない。仮説3:賞賛獲得欲求と拒否回避欲求がともに高いと、敵意帰属を行いやすい。これらを検証するため、研究1を行った。

研究1では、相手の意図が明確でない状況の場面想定法を用いた質問紙調査を行った。参加者には2種類のシナリオを読んで何故その状況に陥ったかを問う帰属傾向尺度、評価懸念測定尺度、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度、個人属性について回答してもらった。分析の結果、仮説2は支持され、先行研究と同様の関係が改めて確認された。仮説3は不支持だったが、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求から意図帰属バイアスへの影響が示された。仮説1は不支持で、評価懸念は意図帰属バイアスに影響しないという結果が得られたが、仮説2・3の結果から両者が無関連とは考えにくい。先行研究と結果が異なる理由を、研究1では回答時に評価懸念が低かったためと考えた。

そこで研究2では、参加者を「第三者が回答の評価を行う」と予告される評価群と、「回答は誰にも公開されない」と予告される統制群に振り分け、「仮説4:評価群は統制群よりも評価懸念が高く、敵意帰属と自責帰属を行いやすい」を検討した。

研究2でも研究1と同様の質問紙調査を行ったが、操作は有効でなかった。そこで参加者を評価懸念の高低2群に振り分け直し分析したところ、高群は低群よりシナリオ1の敵意帰属を行うという結果を得たが、評価懸念の影響は明らかにならなかった。

また、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求が意図帰属バイアスに与える影響は研究1と2で共通しており、賞賛獲得欲求が敵意帰属を促進し、拒否回避欲求は自責帰属を促進するという傾向がみられた。また、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の効果は拮抗しており、互いの効果を抑制し合う可能性が示された。

今後の研究では、評価懸念と帰属バイアスとの関連について、最終的な意図帰属判断だけでなく、帰属の途中過程に着目するなど新たな観点からの検討が望まれる。

(社会心理学)

ここに書かれている文章は、要約集の原稿のスタイル(フォーマット)に従って書かれています。以下に従って作成してください。(※このファイルに上書きする形で作成してください。)

- 1) 用紙は A4 サイズを縦置きに使用します。
- 2) 左右・上下のマージンは 25mm に設定します。
- 3) 1ページあたり行数は 40 行に設定します。
- 4) フォントの書体は明朝体 (MS P 明朝), 色は黒のみを用い, フォントサイズは,
 タイトル: 14 ポイント
 副題: 12 ポイント
 氏名: 12 ポイント
 本文: 10.5 ポイント
にします。
- 5) タイトルはセンタリング(中央揃え)し, 氏名は右端に詰めます(右揃え)。副題がある場合は, タイトル行の次の行に書きセンタリングします。タイトルや副題が 1 行に収まらない場合には, 区切りのいいところで改行しセンタリングします。
- 6) タイトル(あるいは副題)と氏名, および氏名と本文の間には, それぞれ本文1行分のスペース行を入れます。
- 7) 氏名は, 姓と名の上に 1 文字分の全角スペースを入れます。
- 8) ページ番号は付けません。
- 9) 原稿枚数は,
 卒業論文:1 ページ以内
 修士論文:2 ページ以内
 博士論文:4 ページ以内
です。
- 10) 提出された原稿はそのままオフセット印刷にまわしますので, 原稿は折り曲げず提出してください。また, 提出後の校正はできませんので, 提出前には間違いのないよう十分に推敲をしてください。
- 11) プリンタによっては, 実際に出力したものが設定内容と異なる場合がありますから, 原稿は必ずプリントアウトした状態で規定のマージンに合っていることを確認してください。
- 12) 最下行末尾に, 所属研究分野名を記す。
 例 *****が示唆された。(行動統計科学)
- 13) 原則として, 提出された要約集原稿は行動学系 HP に掲載されます。承諾書に必要事項を記入の上, 各研究分野担当教員まで提出をお願いします。